

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年12月17日(火)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第45週から第48週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(45週～48週)4週 (R6. 11. 4 ~ R6. 12. 1)	前回(41週～44週)4週 (R6. 10. 7 ~ R6. 11. 3)	前々回(37週～40週)4週 (R6. 9. 9 ~ R6. 10. 6)
1 インフルエンザ (427) [↑ 362]	1 手足口病 (510)	1 手足口病 (625)
2 感染性胃腸炎 (359) [↑ 69]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (319)	2 新型コロナウイルス感染症 (517)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (292) [↓ 27]	3 感染性胃腸炎 (290)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (403)
4 手足口病 (169) [↓ 341]	4 新型コロナウイルス感染症 (182)	4 感染性胃腸炎 (242)
5 新型コロナウイルス感染症 (163) [↓ 19]	5 インフルエンザ (65)	5 RSウイルス感染症 (64)
6 その他 (136) [↑ 33]	6 その他 (103)	6 その他 (103)
(合計 1,546)	(合計 1,469)	(合計 1,954)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,546件であり、5%(77件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 557%	手足口病 67%
マイコプラズマ肺炎 175%	咽頭結膜熱 40%
伝染性紅斑 173%	新型コロナウイルス感染症 10%
感染性胃腸炎 24%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 8%

3 コメント

【伝染性紅斑】

12月11日に県内全域で警報を発令しました。飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。

【インフルエンザ】

11月上旬に流行期入りし、増加傾向が続いています。場面に応じたマスクの着用や換気、手洗い、手指消毒などの感染対策をお願いします。ワクチンは主に重症化予防に効果がありますので、希望される方は早めの接種を検討しましょう。

【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

【百日咳】

6月以降、特に東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、11月以降は西部地区でも増加傾向です。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年

で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【手足口病】

12月11日に警報は解除となりましたが、感染者の報告が続いています。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、引き続きトイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

【梅毒】

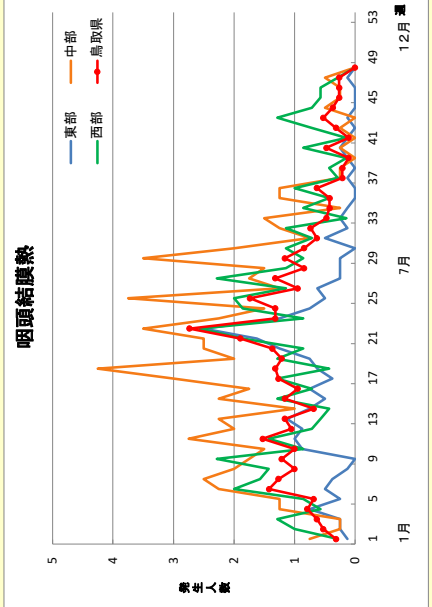
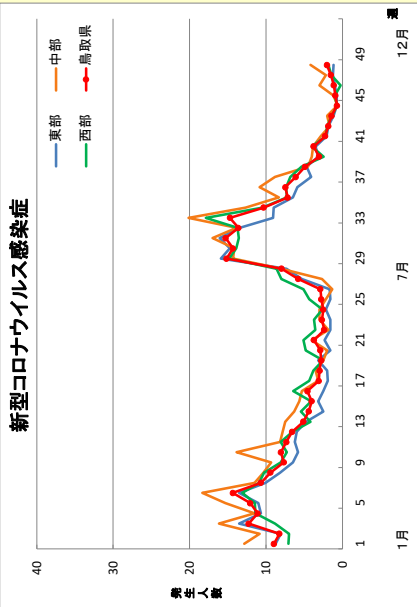
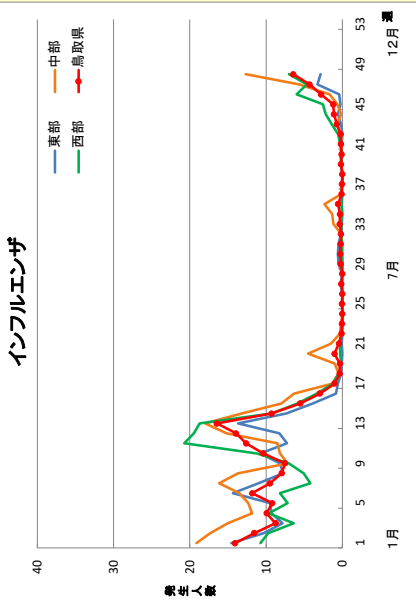
本年は11月末時点で過去最多であった令和2年の32件を上回る39件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

令和6年第45週～第48週の報告患者数

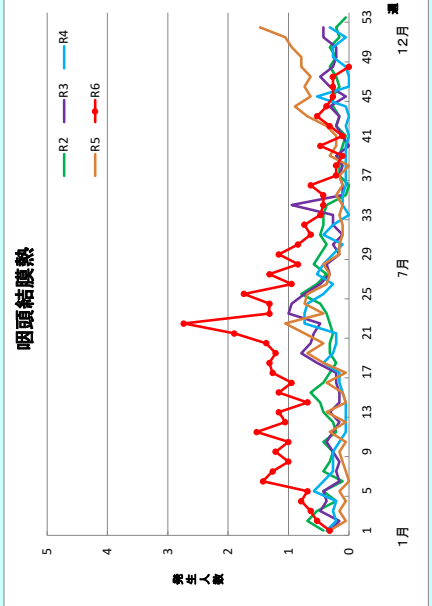
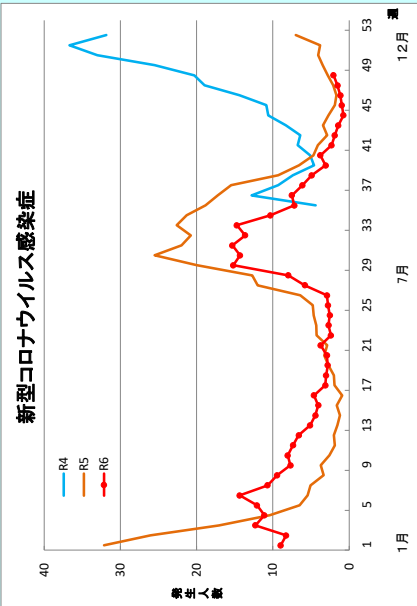
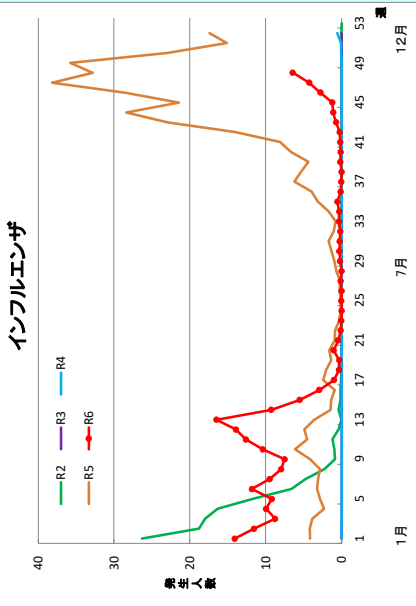
令和6年12月6日 作成

区 分	今回報告患者数 第45週～第48週(4週分)					前回報告患者数 第41週～第44週(4週分)				前々回報告患者数 第37週～第40週(4週分)				前回比 増 減	令和6年 患者数 累 計
	東部	中部	西部	計	増減	東部	中部	西部	計	東部	中部	西部	計		
	(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
インフルエンザ/COVID-19定点数	(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
1 インフルエンザ	81	124	222	427	362	10	7	48	65	6	1	2	9	557%	5,347
2 新型コロナウイルス感染症	50	63	50	163	-19	70	43	69	182	185	127	205	517	-10%	8,852
小児科定点数	(8)	(4)	(7)	(19)		(8)	(4)	(7)	(19)	(8)	(4)	(7)	(19)		
3 咽頭結膜熱	1	4	10	15	-10	2	3	20	25	4	3	12	19	-40%	780
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	186	40	66	292	-27	187	64	68	319	207	135	61	403	-8%	5,786
5 感染性胃腸炎	187	118	54	359	69	150	84	56	290	145	51	46	242	24%	4,290
6 水痘	4	0	2	6	3	3	0	0	3	0	1	0	1	100%	114
7 手足口病	59	48	62	169	-341	123	123	264	510	158	75	392	625	-67%	2,630
8 伝染性紅斑	4	0	26	30	19	0	0	11	11	3	0	6	9	173%	56
9 突発性発疹	3	3	9	15	-2	3	4	10	17	1	4	4	9	-12%	194
10 ヘルパンギーナ	1	0	0	1	-5	1	0	5	6	7	20	10	37	-83%	401
11 流行性耳下腺炎	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	—	16
12 RSウイルス感染症	3	0	3	6	-12	8	3	7	18	25	20	19	64	-67%	819
眼科定点数	(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
13 急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
14 流行性角結膜炎	1	6	5	12	7	4	0	1	5	2	2	1	5	140%	59
基幹定点数	(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
15 細菌性髄膜炎	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	—	11
16 無菌性髄膜炎	0	0	3	3	1	2	0	0	2	1	0	1	2	50%	24
17 マイコプラズマ肺炎	17	22	5	44	28	12	4	0	16	6	2	0	8	175%	72
18 クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
19 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	1	0	3	—	15
合 計	597	431	518	1,546	77	575	335	559	1,469	752	443	759	1,954	5%	29,468

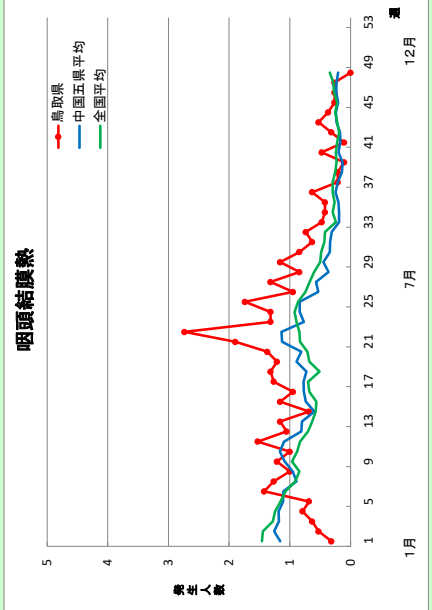
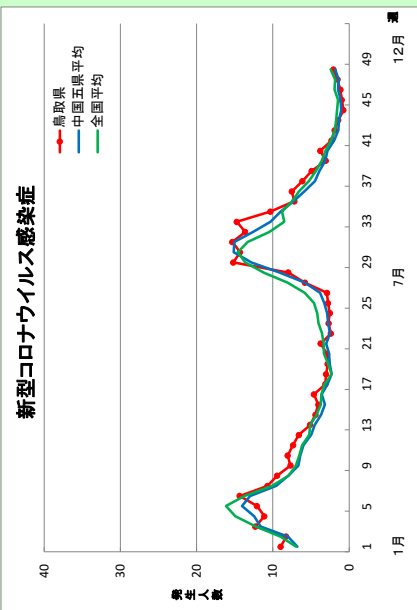
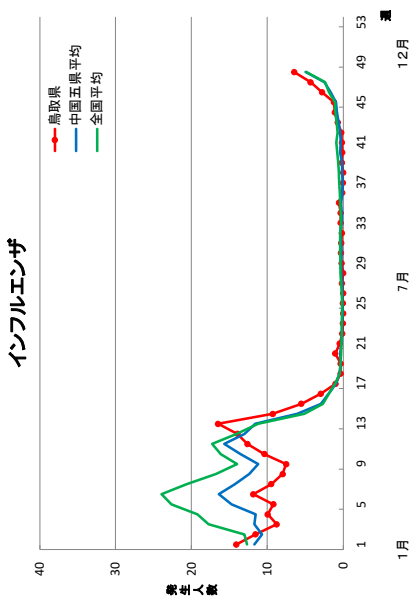
地区発生状況グラフ(定点当たり)



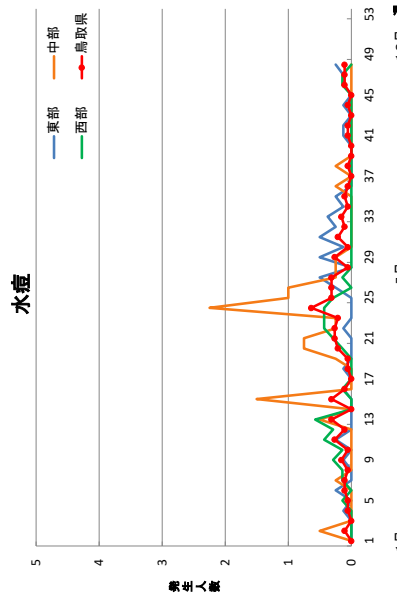
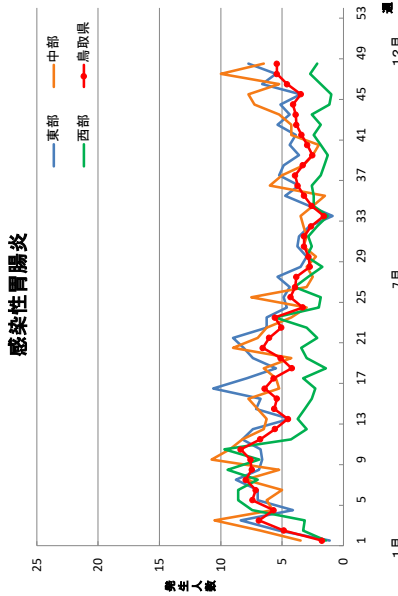
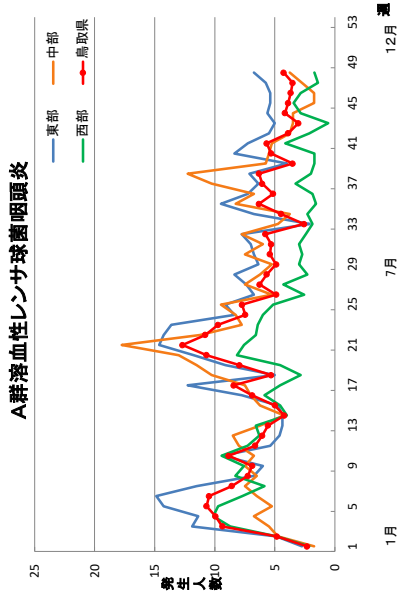
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



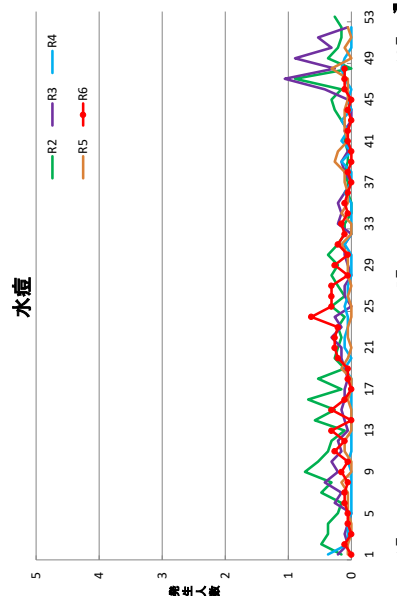
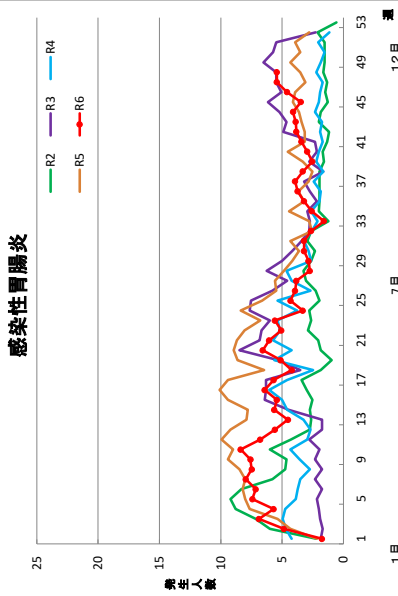
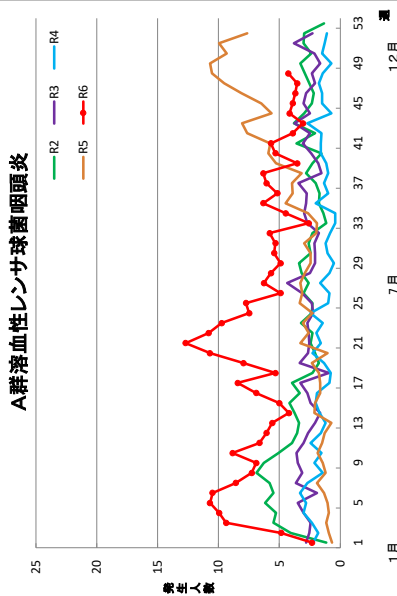
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



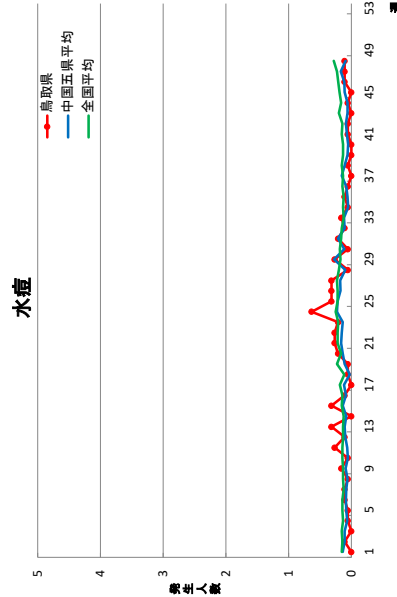
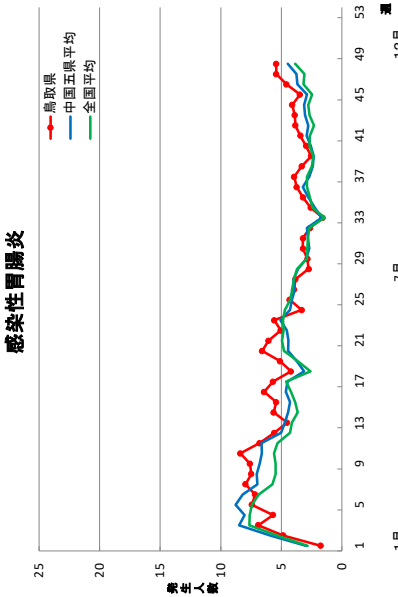
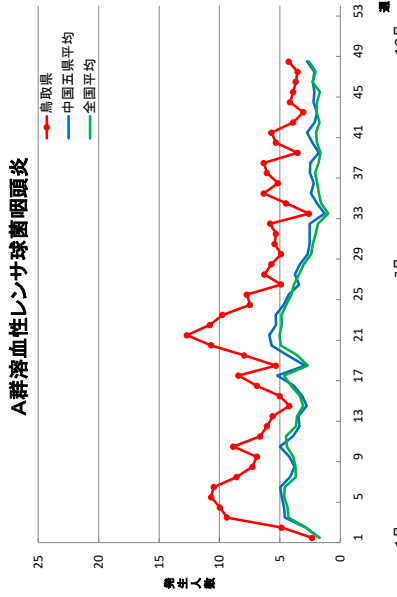
地区発生状況グラフ(定点当たり)



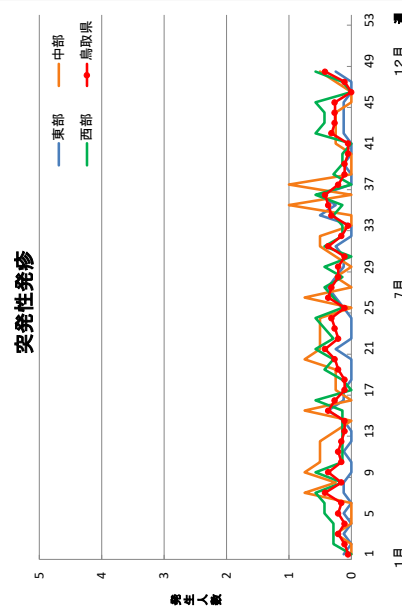
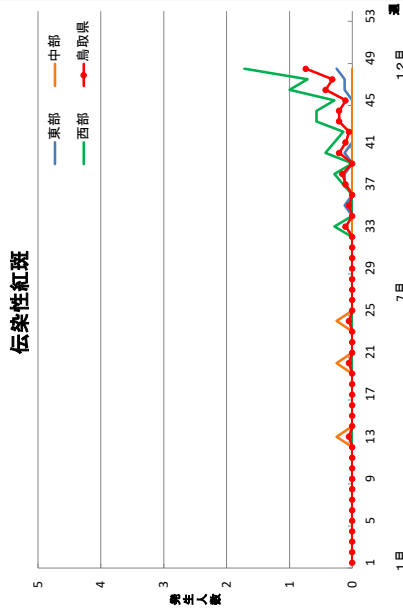
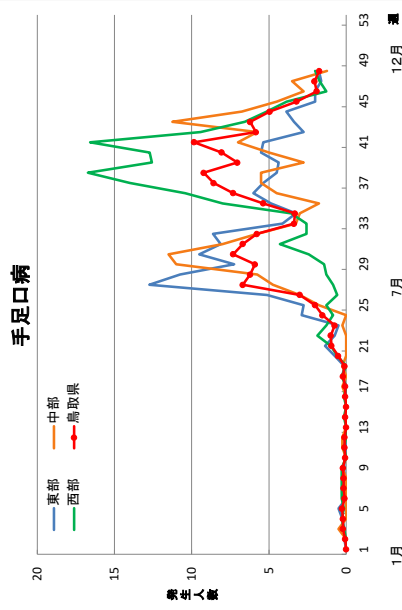
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



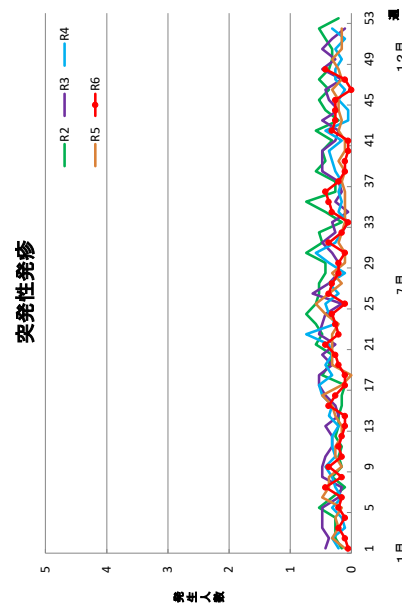
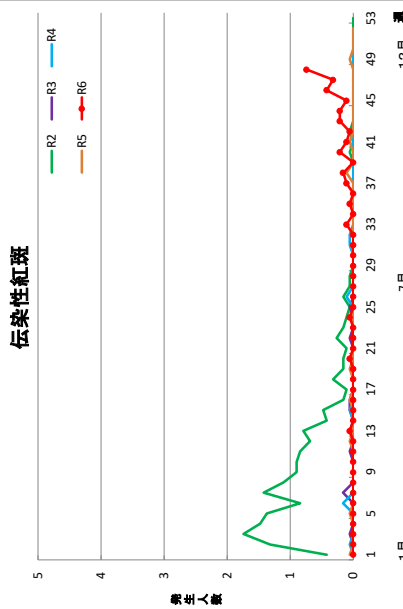
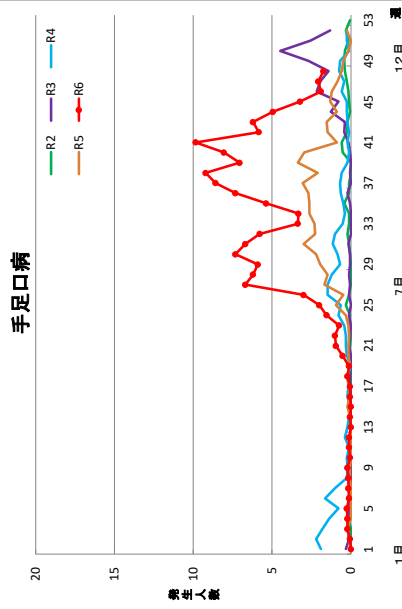
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



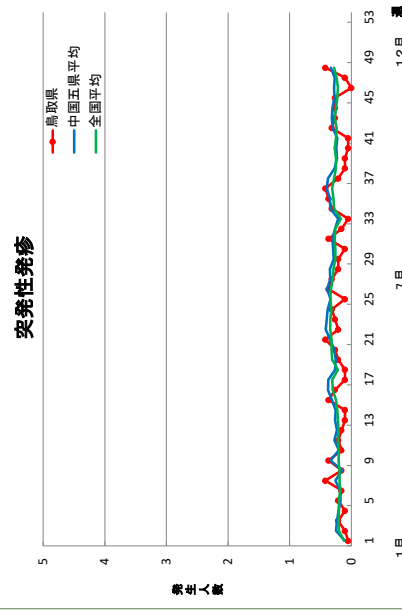
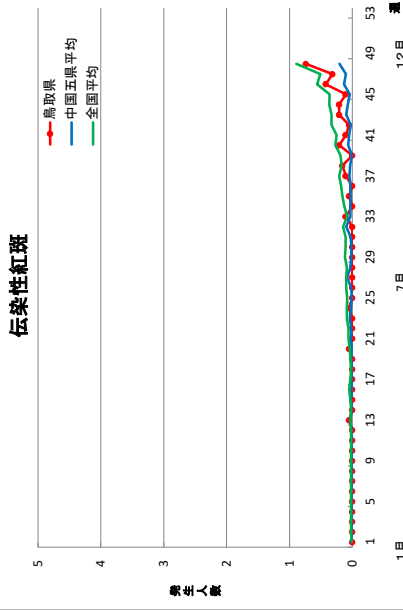
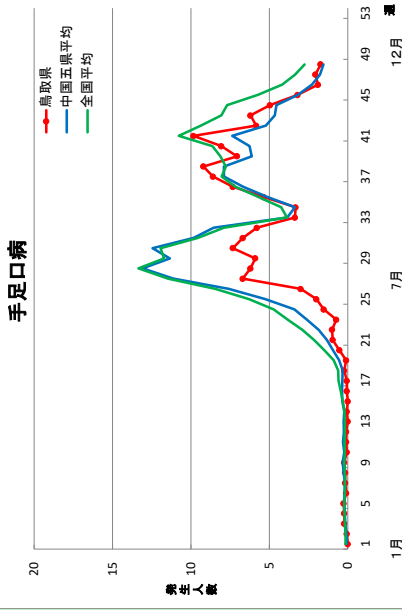
地区発生状況グラフ(定点当たり)



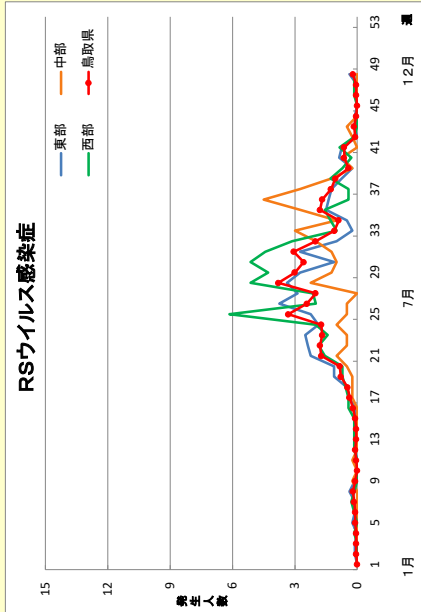
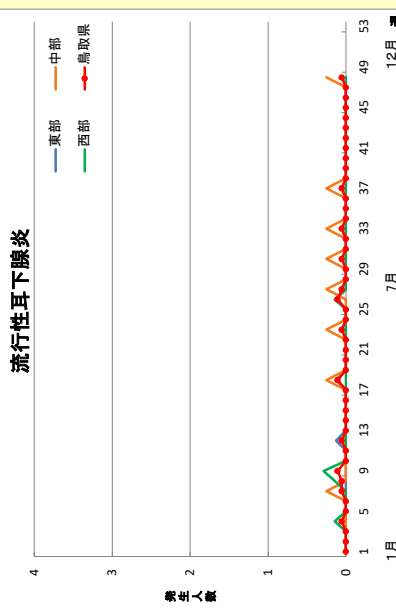
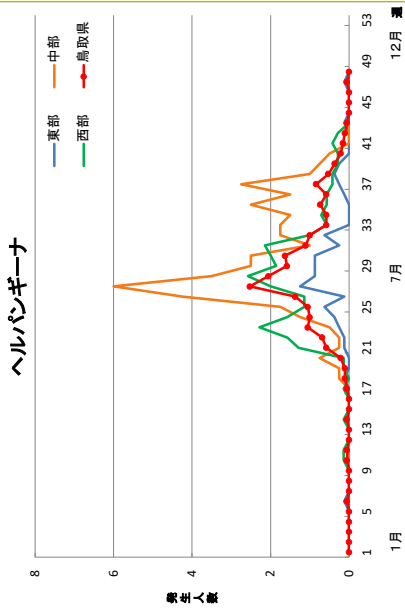
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



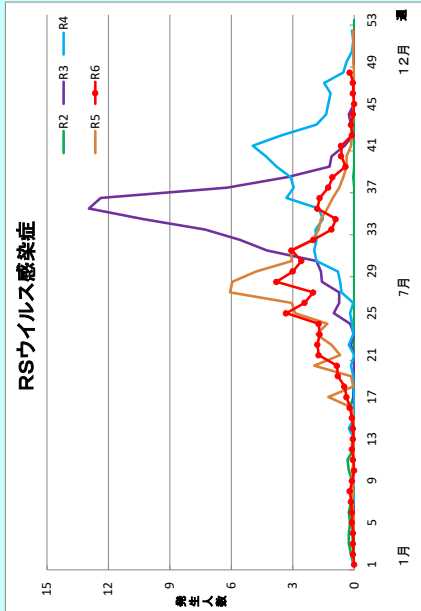
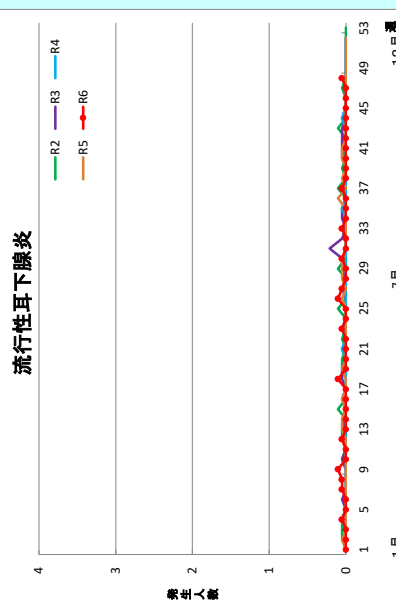
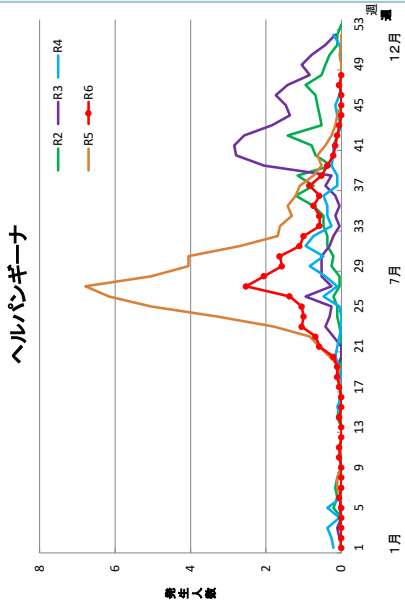
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



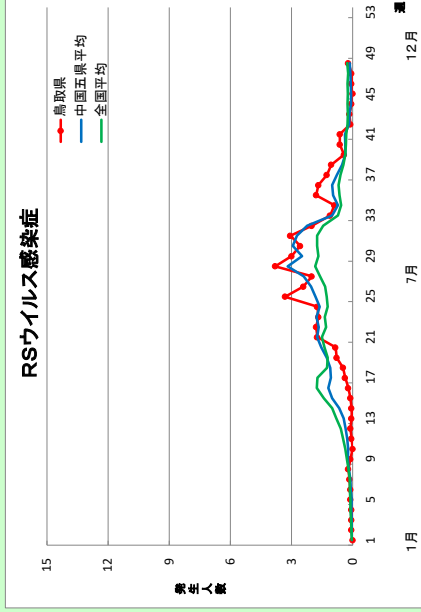
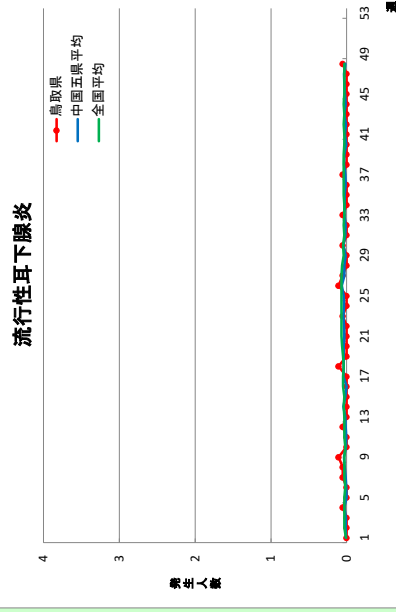
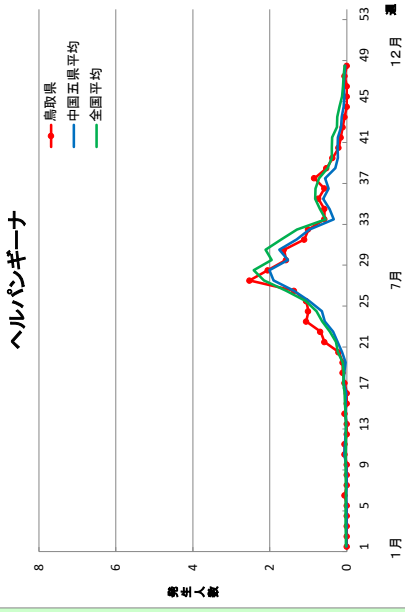
地区発生状況グラフ(定点当たり)



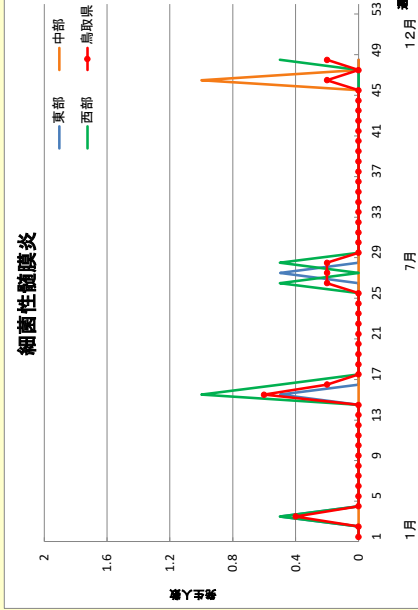
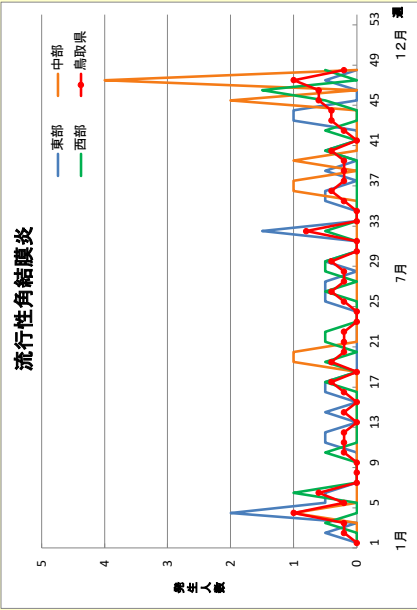
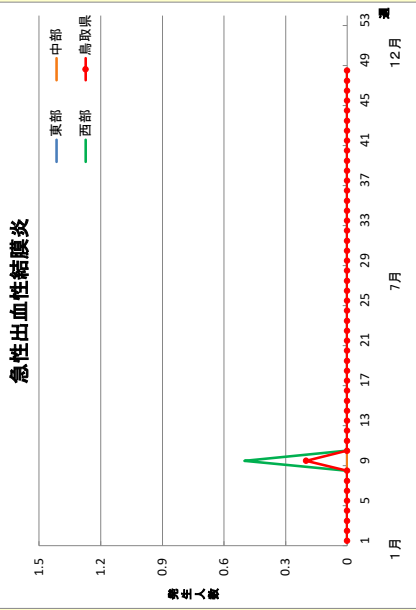
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



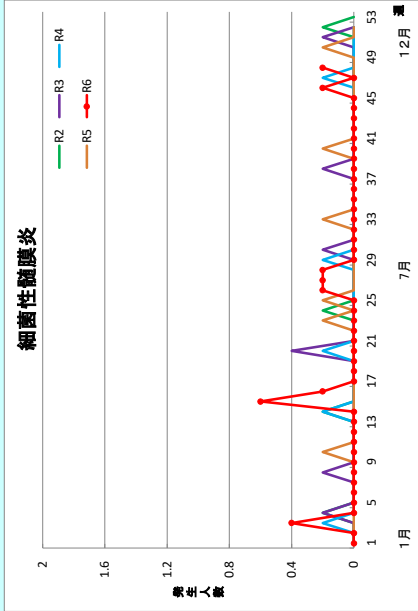
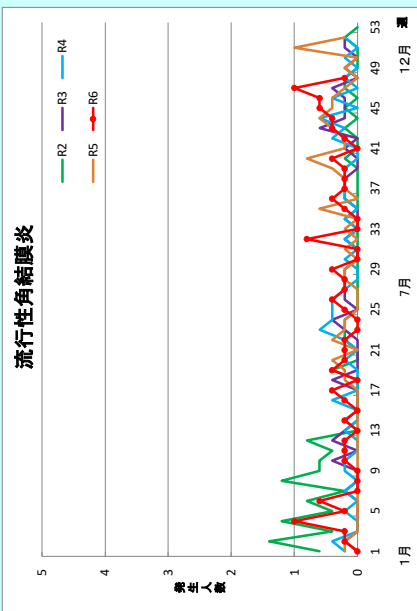
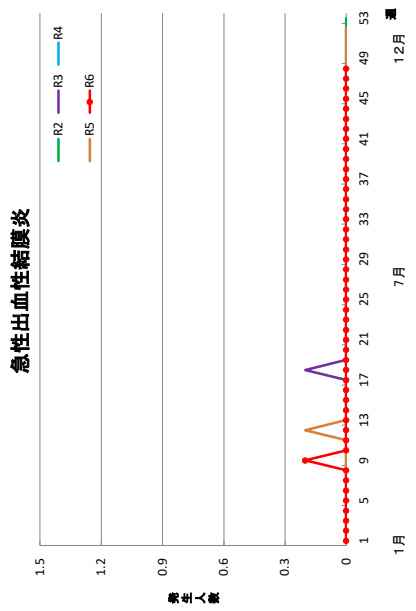
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



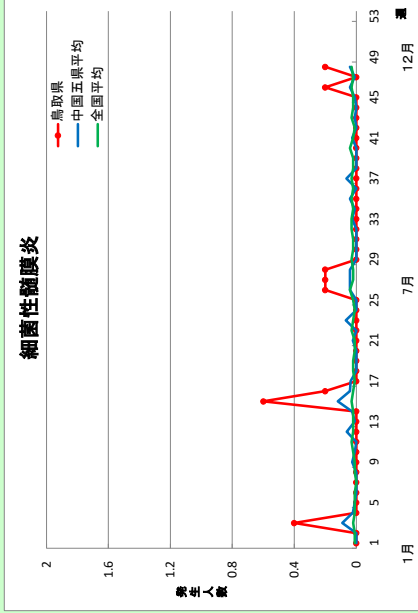
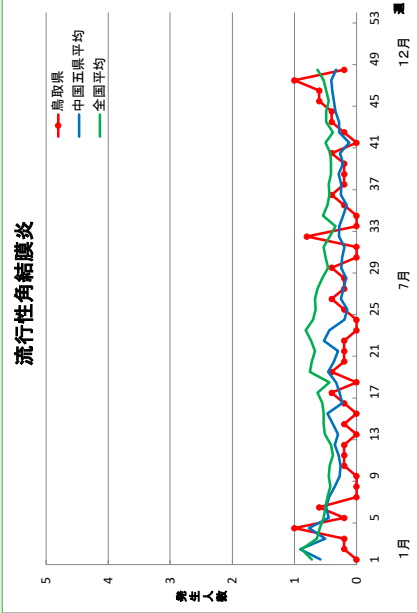
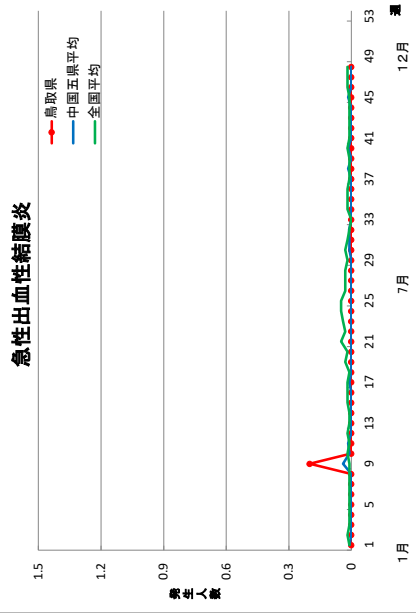
地区発生状況グラフ(定点当たり)



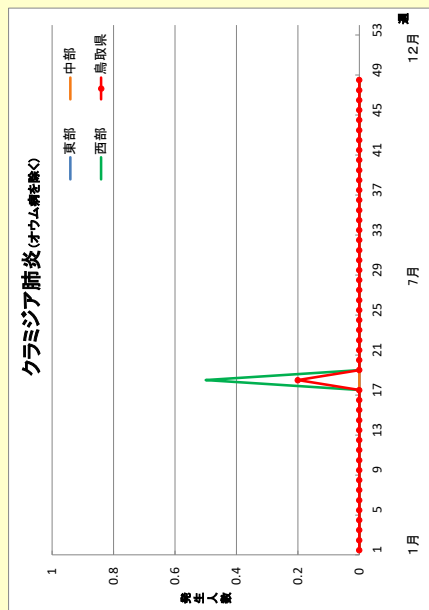
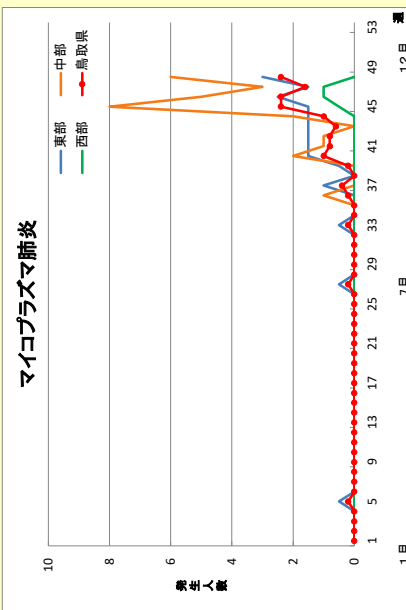
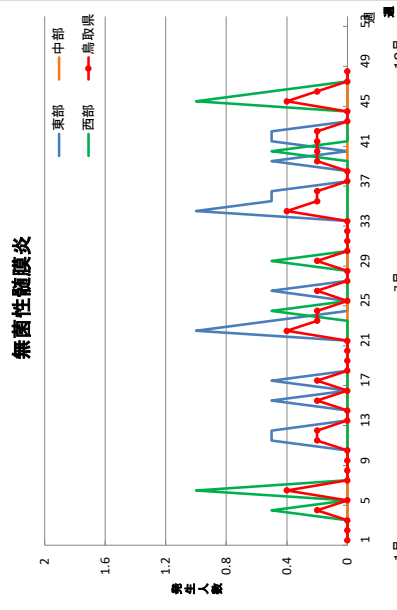
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



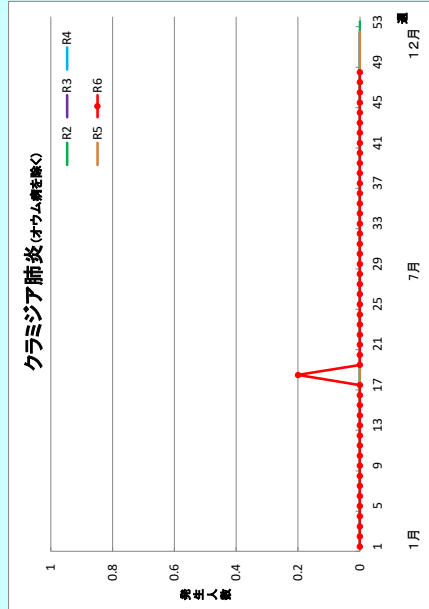
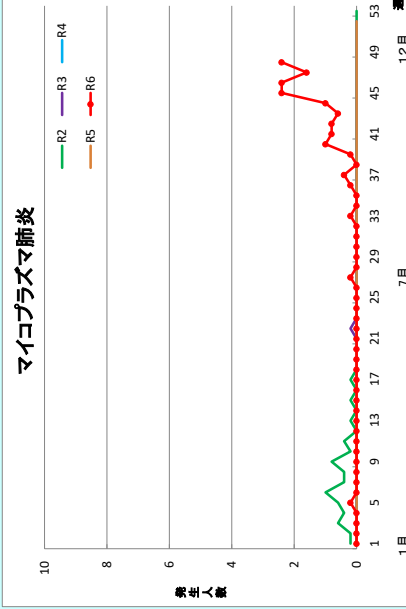
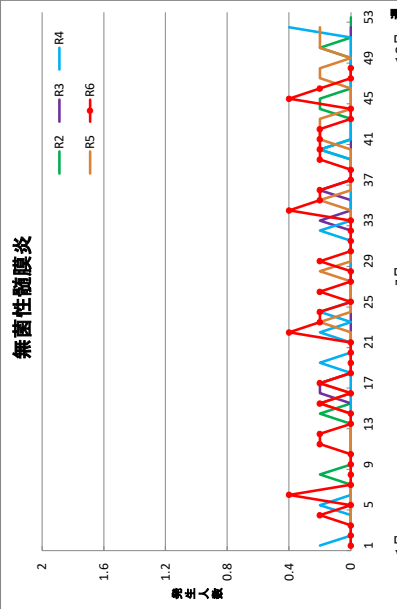
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



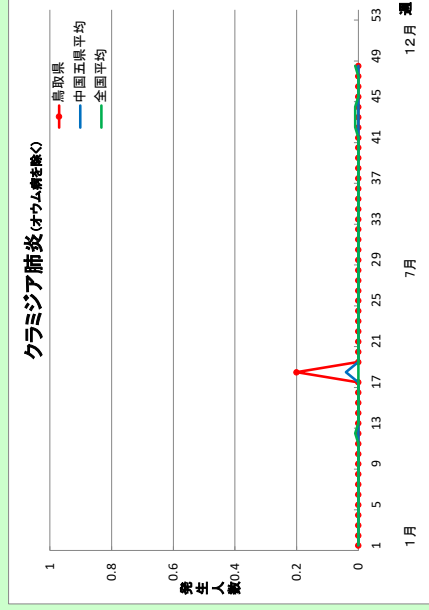
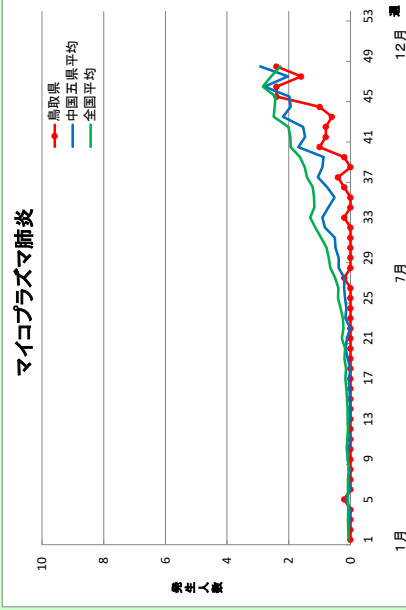
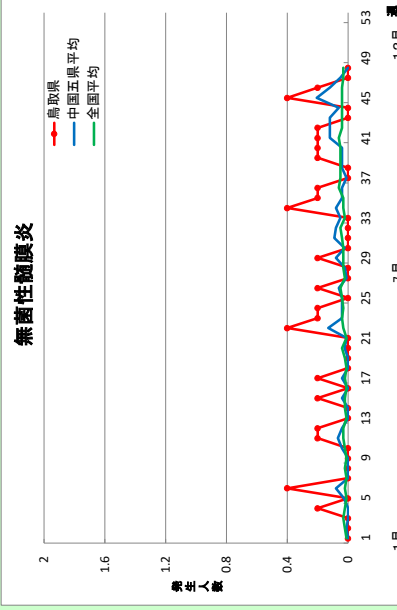
地区発生状況グラフ(定点当たり)



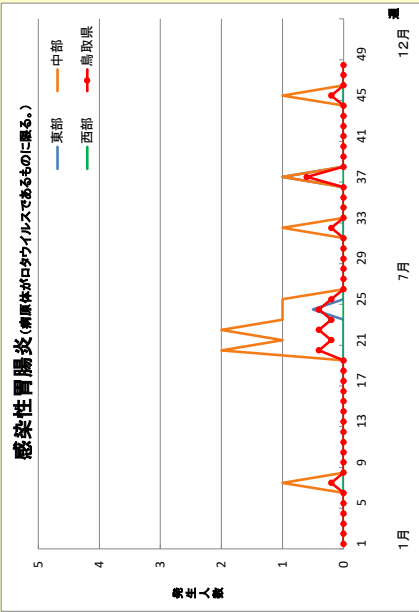
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



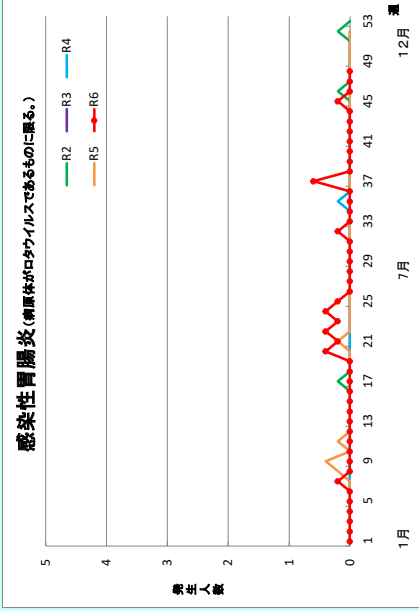
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



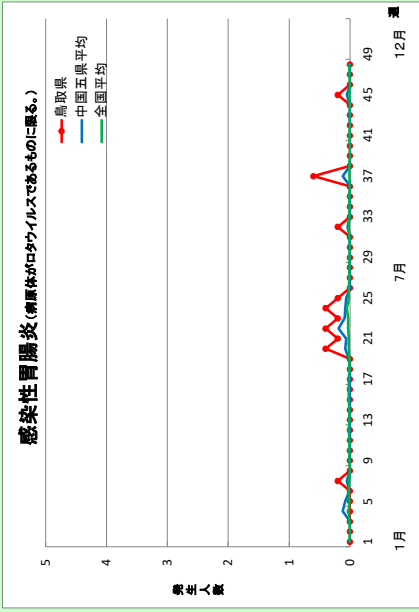
地区発生状況グラフ(定点当たり)



年次別発生状況グラフ(定点当たり)



中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



注) 新型コロナウイルス感染症は、令和5年第16週(5/1~5/7)までは全数報告分のうち定点医療機関からの報告件数を元に算出。

令和5年

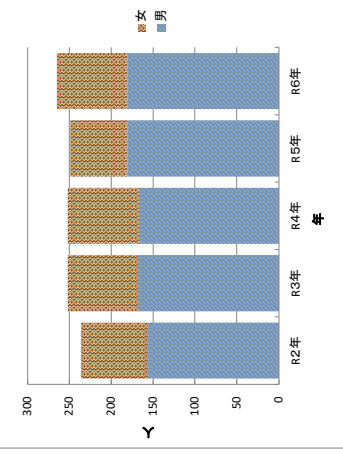
定点数	疾病名	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1~12月計		対前年累計比率								
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計					
10	性器クラミジア感染症	5	15	20	8	3	11	22	6	19	13	7	19	13	6	19	6	25	25	7	32	13	3	16	14	4	18	181	68	249	106%	80%	99%			
5	性器ヘルペスウイルス感染症	2	7	4	6	10	4	2	6	9	6	15	5	2	7	6	11	4	4	8	3	3	6	7	6	13	10	17	72	51	123	92%	100%	95%		
3	尖圭コンジローマ	1	4	1	0	1	0	1	5	1	6	4	0	4	9	1	10	3	2	5	2	0	2	1	4	5	4	3	7	37	16	53	142%	133%	139%	
5	淋菌感染症	1	6	3	0	2	11	8	0	8	6	3	9	5	2	7	4	1	5	3	4	5	1	6	7	1	8	3	1	4	61	17	78	91%	121%	96%
6	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	11	4	1	5	4	8	4	5	9	9	16	3	4	6	9	3	12	4	8	6	4	10	6	3	9	6	1	7	66	42	108	103%	111%	106%
0	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	2	2	1	0	1	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	6	4	10	100%	100%	100%	
5	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	—	—	—		

令和6年

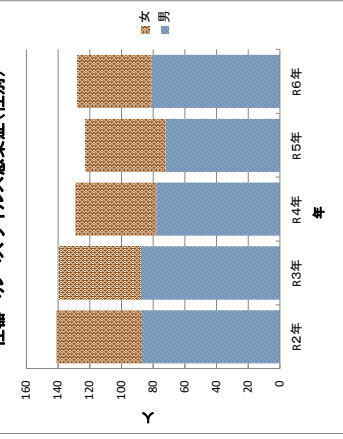
定点数	疾病名	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1~11月計		対前年11月末累計比率					
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
9	性器クラミジア感染症	6	15	10	11	21	27	10	37	14	8	22	16	5	21	16	5	32	15	5	20	10	10	20	16	7	23	181	84	265	108%	131%	115%
7	性器ヘルペスウイルス感染症	6	13	5	2	7	10	4	14	6	3	9	7	3	10	15	7	22	7	4	11	8	7	15	3	2	5	81	47	128	131%	107%	121%
7	尖圭コンジローマ	0	7	5	2	7	2	1	3	2	5	3	1	4	3	2	0	2	6	0	6	2	2	4	0	1	1	34	12	46	103%	92%	100%
5	淋菌感染症	3	8	11	3	14	2	1	3	8	1	9	7	2	9	5	2	7	3	0	3	1	1	2	1	2	58	15	73	100%	94%	100%	
7	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	8	4	2	6	8	6	14	10	2	12	4	3	7	2	1	3	4	2	6	8	1	9	4	13	64	29	93	107%	71%	92%	
0	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	7	0	7	117%	0%	70%
5	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100%	—	100%	

※各年毎に1月から12月の定点医療機関からの累計患者報告数です。

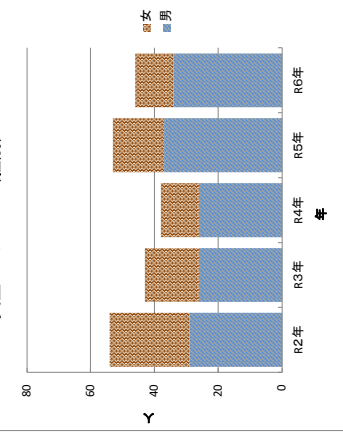
性器クラミジア感染症(性別)



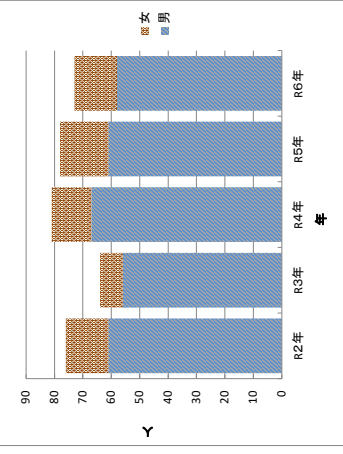
性器ヘルペスウイルス感染症(性別)



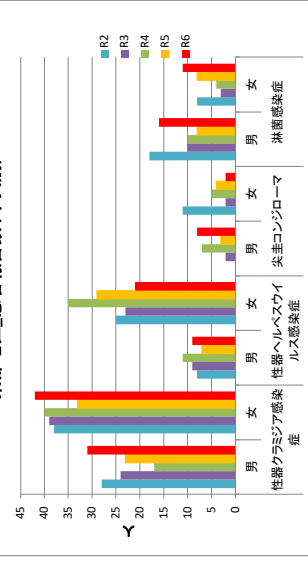
尖圭コンジローマ(性別)



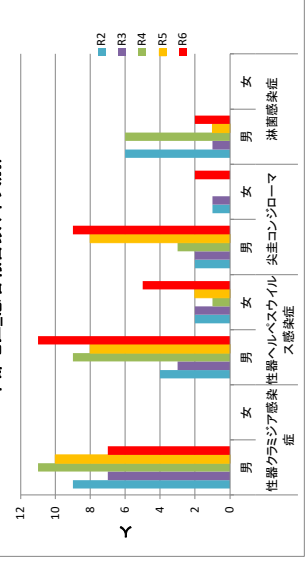
淋菌感染症(性別)



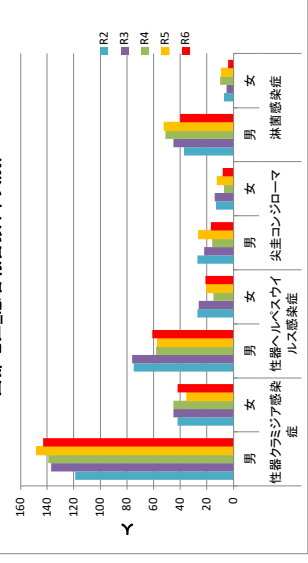
東部地区_患者報告数(年次別)



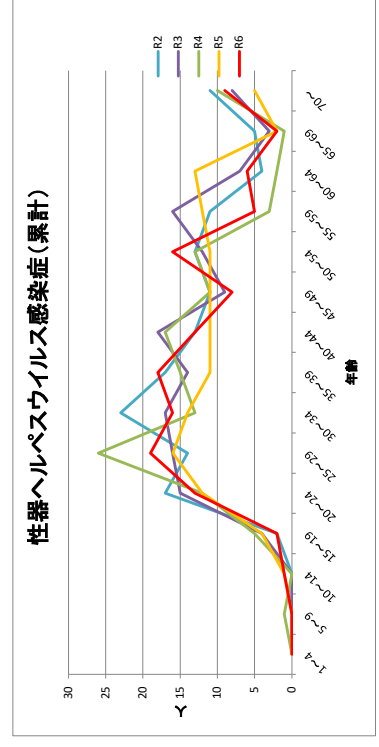
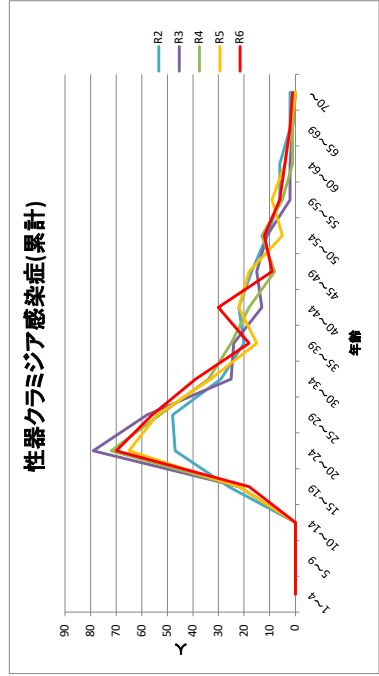
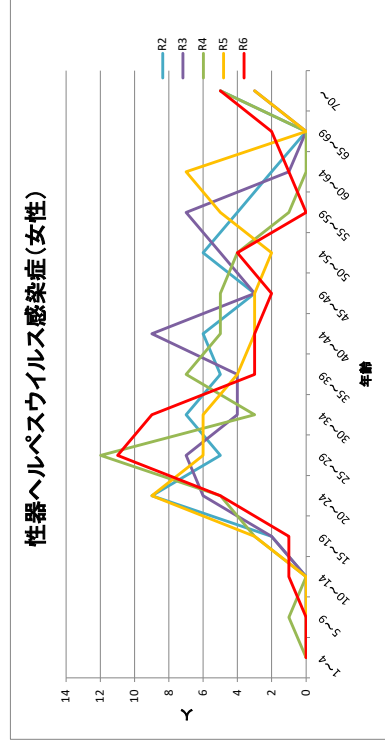
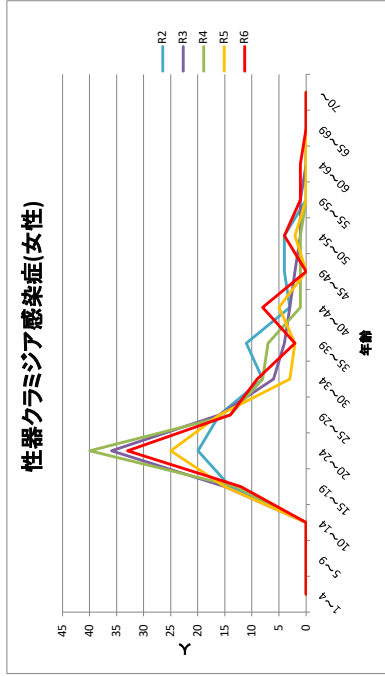
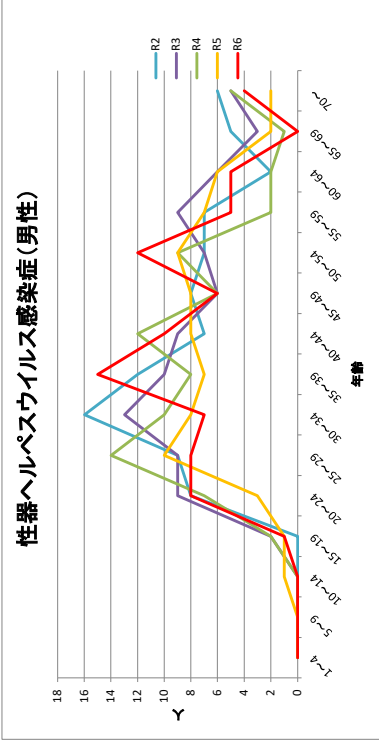
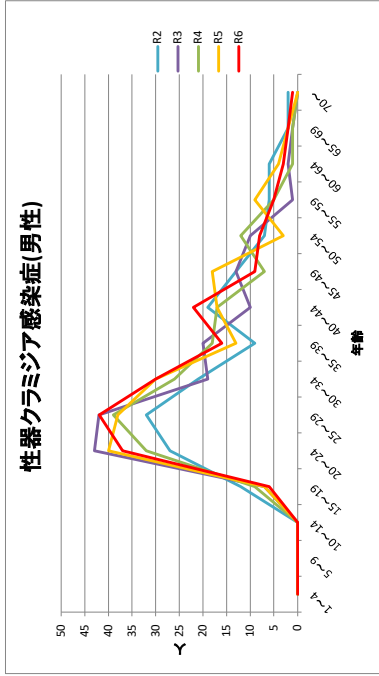
中部地区_患者報告数(年次別)



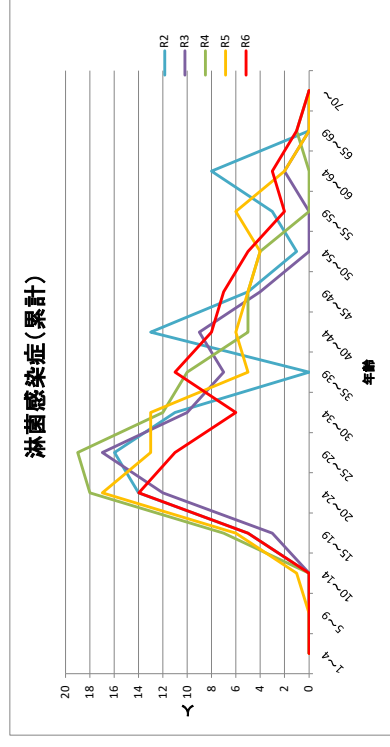
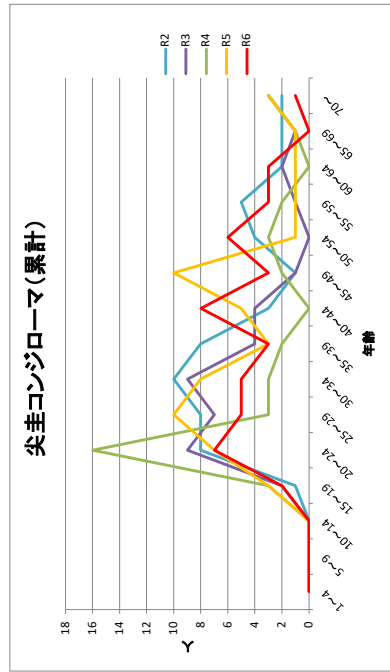
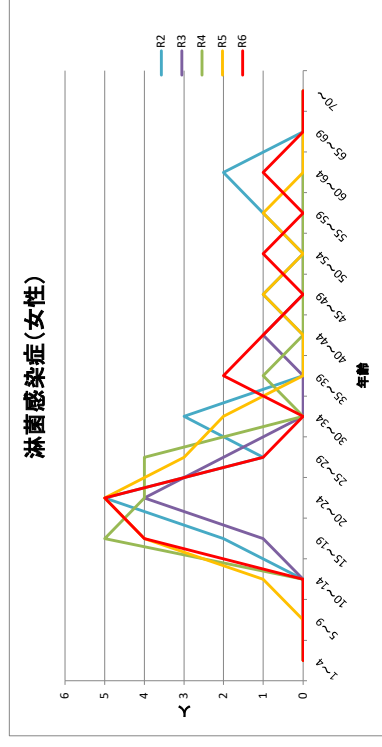
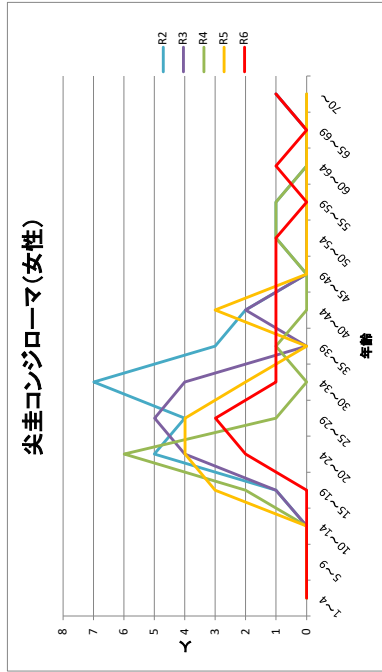
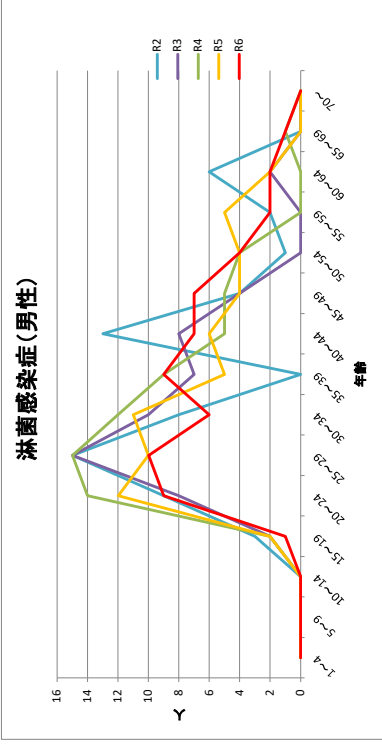
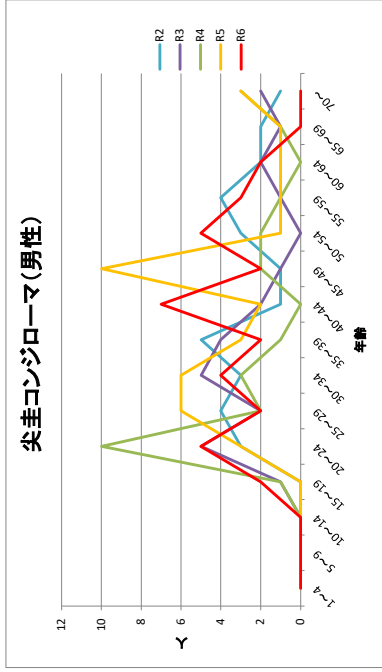
西部地区_患者報告数(年次別)



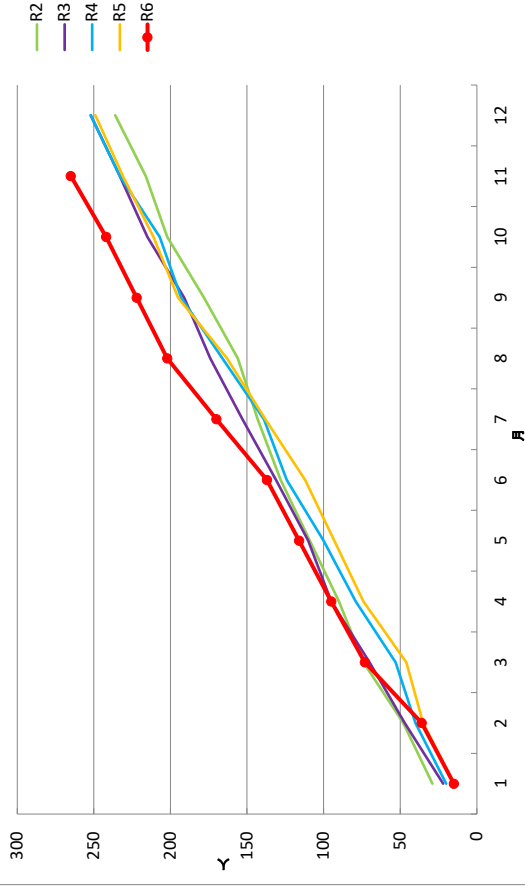
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



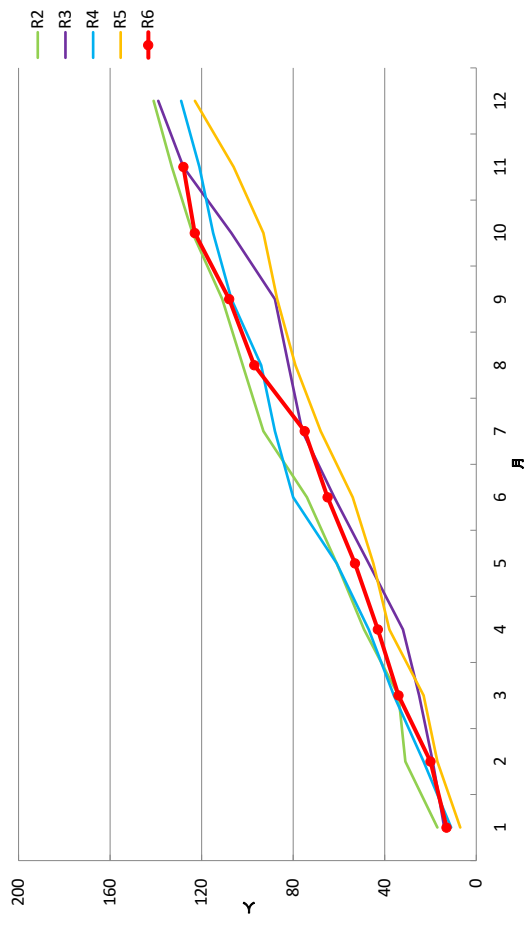
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



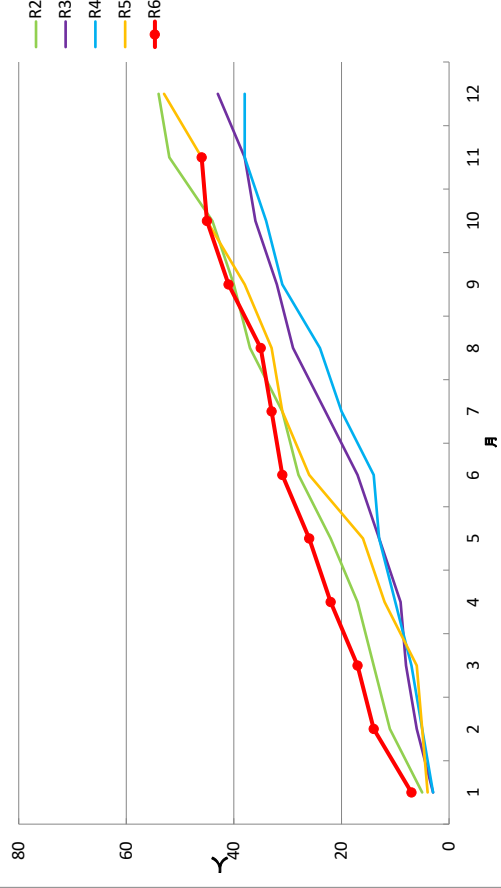
性器クラミジア感染症報告状況(累計)



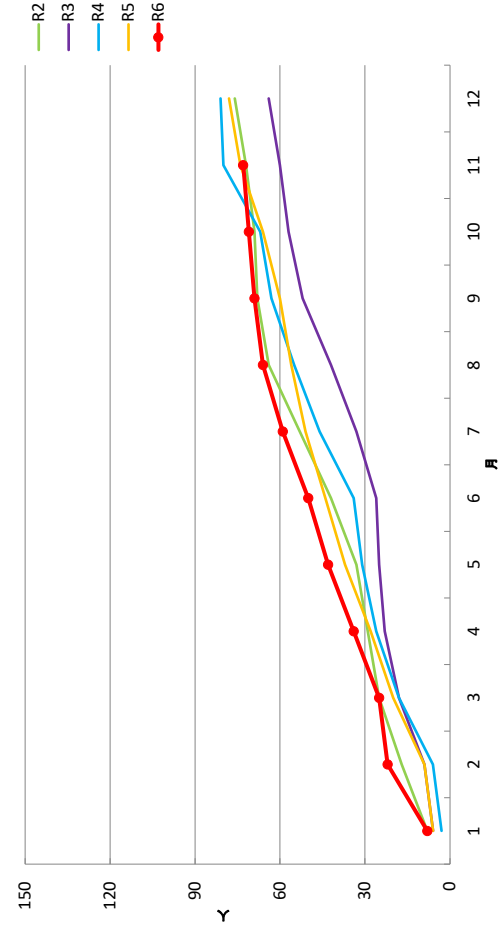
性器ヘルペスウイルス感染症報告状況(累計)



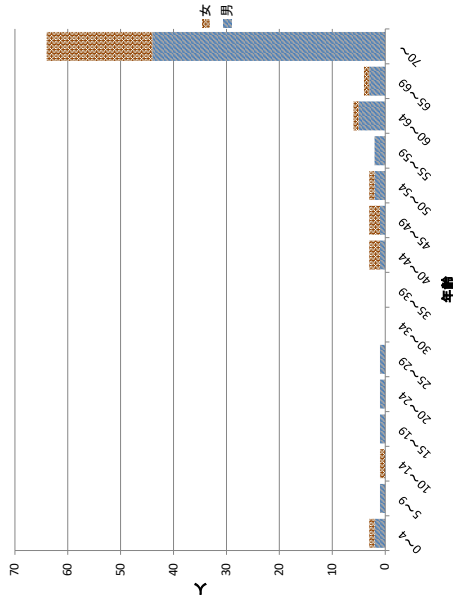
尖圭コンジローマ報告状況(累計)



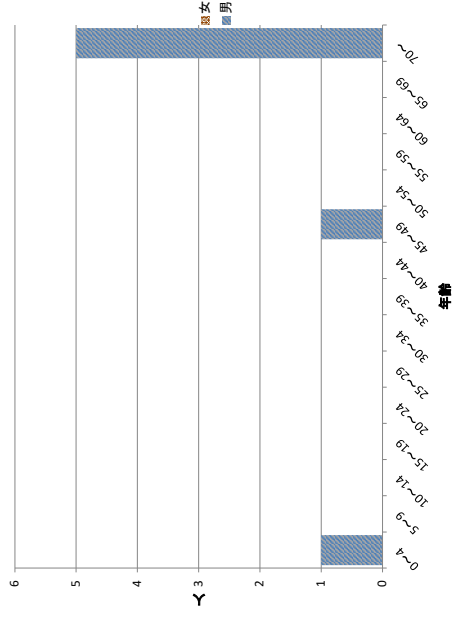
淋菌感染症報告状況(累計)



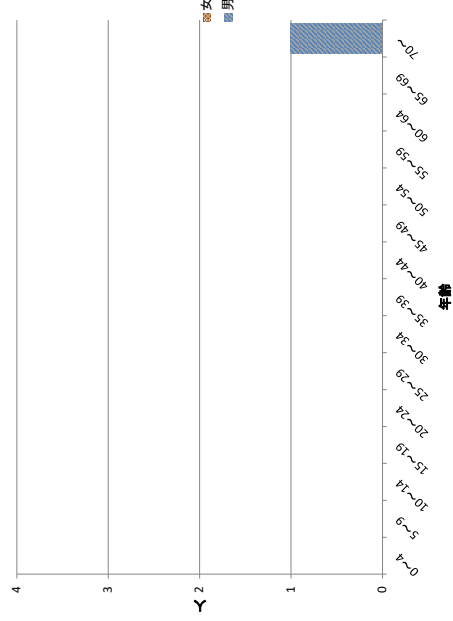
令和6年 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(年齢別累計)



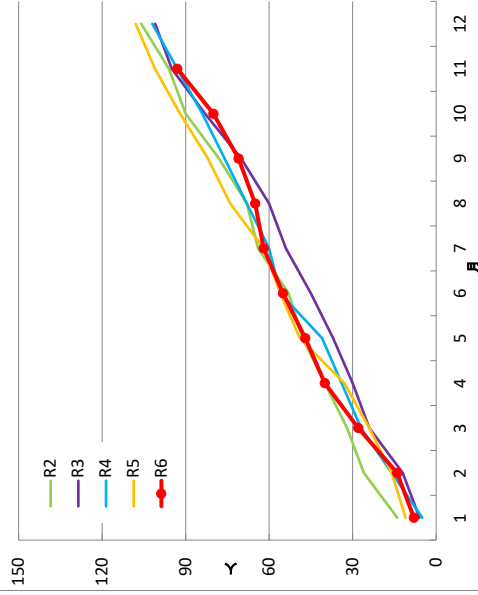
令和6年 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(年齢別累計)



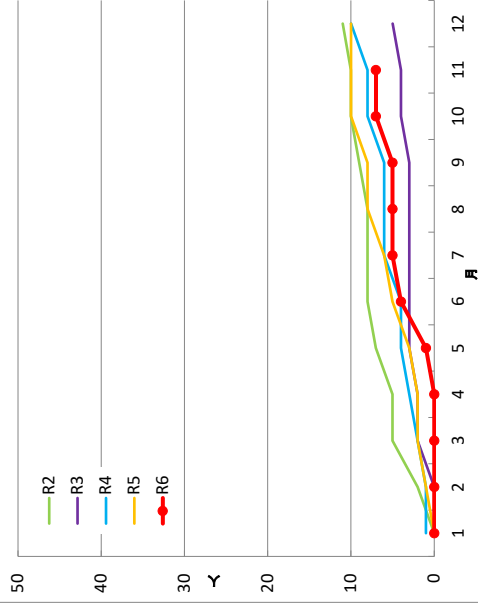
令和6年 薬剤耐性緑膿菌感染症
(年齢別累計)



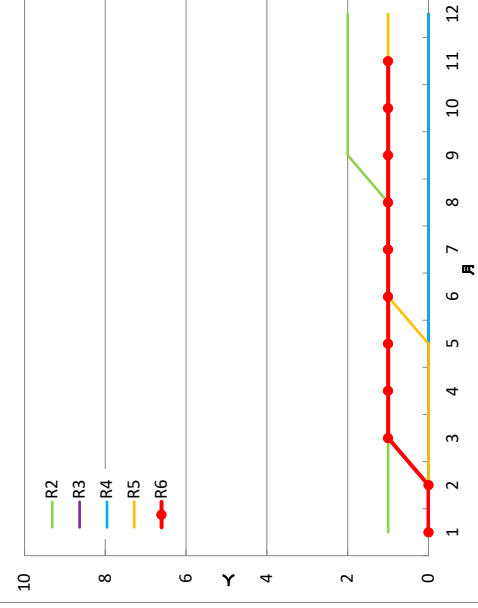
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症報告状況(累計)



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症報告状況(累計)



薬剤耐性緑膿菌感染症報告状況(累計)



鳥取県における感染症発生状況(全数報告分・令和6年)

令和6年11月30日 現在
※()は前年数値

(1)2類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計															
													11月時点	年間														
急性灰白髄炎														0	(0)	(0)												
結核	3	(1)	2	(2)	5	(5)	6	(2)	3	(5)	6	(2)	1	(4)	7	(5)	5	(5)	2	(3)	5	(6)	(1)	45	(40)	(41)		
潜在性結核 ※再掲	1		2	(2)	2		1	(1)	2		1						3	(1)							12	(7)	(7)	
疑似症患者 ※再掲																										0	(0)	(0)
ジフテリア																										0	(0)	(0)
重症急性呼吸器症候群																										0	(0)	(0)
中東呼吸器症候群																										0	(0)	(0)
鳥インフルエンザ(H5N1)																										0	(0)	(0)
鳥インフルエンザ(H7N9)																										0	(0)	(0)

(2)3類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計							
													11月時点	年間						
コレラ														0	(0)	(0)				
疑似症 ※再掲														0	(0)	(0)				
細菌性赤痢														0	(0)	(0)				
腸管出血性大腸菌感染症		1	1		5	2	(1)	1	3	(5)	1	(9)	3	(2)	3		(2)	20	(17)	(19)
腸チフス														0	(0)	(0)				
パラチフス														0	(0)	(0)				

(3)4類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計					
													11月時点	年間				
マラリア														0	(0)	(0)		
E型肝炎							(1)							0	(1)	(1)		
A型肝炎									1					1	(0)	(0)		
つつが虫病				(1)							1			1	(1)	(1)		
日本紅斑熱					1	(1)	1	2	2	(1)	2		(1)	8	(3)	(3)		
重症熱性血小板減少症候群			(1)			1			1	(1)				2	(2)	(2)		
レジオネラ症	(1)			(1)	2	(2)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	2	(1)	(1)	8	(10)	(11)
レプトスピラ症														0	(0)	(0)		
デング熱						(1)								0	(1)	(1)		
チクングニア熱														0	(0)	(0)		

(4)5類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計													
													11月時点	年間												
アメーバ赤痢			(1)	1		(1)	1			1	(1)	2		5	(3)	(3)										
ウイルス性肝炎(E型・A型肝炎を除く)				(1)					1					1	(1)	(1)										
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)				(1)										0	(1)	(1)										
急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎等を除く)	1	(1)		1	(2)			(1)		1				3	(4)	(4)										
クリプトスポリジウム症		(1)												0	(1)	(1)										
クロイツフェルト・ヤコブ病			1											1	(0)	(0)										
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	(1)		2	1	(1)	(1)	1	(1)	3	1	(1)		11	(5)	(6)										
後天性免疫不全症候群			(2)		(1)				1					1	(3)	(3)										
無症候性キャリア ※再掲			(1)		(1)									0	(2)	(2)										
AIDS ※再掲			(1)						1					1	(1)	(1)										
侵襲性インフルエンザ菌感染症			1			1	(2)			(1)	1			3	(3)	(3)										
侵襲性髄膜炎菌感染症														0	(0)	(0)										
侵襲性肺炎球菌感染症	1	(1)	(1)	2	(1)	3	3	(2)	(2)	1	1	(1)	1	12	(8)	(8)										
水痘(入院例に限る。)					1		1						(1)	2	(0)	(1)										
梅毒	2	(1)	5	(6)	1	(1)	2	(4)	2	(3)	5	(4)	7	(1)	6	(1)	2	(4)	5	(1)	2	(2)	(1)	39	(28)	(29)
播種性クリプトコックス症			(2)	1										1	(2)	(2)										
破傷風								1						1	(0)	(0)										
薬剤耐性アシネトバクター感染症														0	(0)	(0)										
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		(2)	(1)	1	2				1	(1)	(4)			4	(8)	(8)										
ジアルジア症														0	(0)	(0)										
百日咳	5	6	2	1	(1)	1	(1)	7	(1)	37	55	54	109	55		332	(3)	(3)								
麻しん						(1)								0	(1)	(1)										
風しん														0	(0)	(0)										

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

① 月別件数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
													11月時点	年間
令和6年		1	1		5 (2)	2 (1)	1 (1)	3	1 (1)	3 (1)	3		20 (6)	20 (6)
令和5年						1		5	9 (3)	2 (2)		2 (1)	17 (5)	19 (6)
令和4年		2 (2)				1	2	3			3 (1)	3	11 (3)	14 (3)
令和3年	1		3 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)						10 (6)	10 (6)
令和2年			1		2 (1)	7 (1)	2	3 (2)	7 (4)	3 (1)		1	25 (9)	26 (9)
令和元年		1	1 (1)		6 (1)	1	2		4 (1)	3 (2)	4	2 (2)	22 (5)	24 (7)
平成30年					3	1	4 (2)	9	4	1			22 (2)	22 (2)
平成29年	1 (1)			1	1 (1)	7 (3)	5 (2)	1			4 (3)	1 (1)	20 (10)	21 (11)
平成28年						5 (4)	3 (1)	6 (1)	1			1 (1)	15 (6)	16 (7)
平成27年						3 (2)	33 (23)	12 (7)	10 (6)	1 (1)	1		60 (39)	60 (39)
平成26年						7 (4)	1	1	1	5 (3)			15 (7)	15 (7)
平成25年		1 (1)			1		6	7 (3)	4 (1)	7 (2)			26 (7)	26 (7)
平成24年						2	1	5 (1)		6 (2)		1	14 (3)	15 (3)
平成23年				1	5 (2)	3 (2)		2 (1)	3 (1)	4 (2)	1	1	19 (8)	20 (8)

② 血清型別件数

区分	O8	O26	O29	O55	O91	O103	O119	O111	O121	O125	O128	O145	O146	O157	型不明	計
令和6年		1		2 (2)				2					1 (1)	12 (1)	2 (2)	20 (6)
令和5年		1 (1)												17 (4)	1 (1)	19 (6)
令和4年						3							2 (2)	8	1 (1)	14 (3)
令和3年						4 (2)							1 (1)	3 (1)	2 (2)	10 (6)
令和2年	1	4 (2)	1			4 (2)		3 (1)		1 (1)	1		1 (1)	7	3 (2)	26 (9)
令和元年						3 (1)		4 (1)						15 (3)	2 (2)	24 (7)
平成30年		2				3						1		16 (2)		22 (2)
平成29年		1				2 (1)		4 (3)					1 (1)	10 (3)	3 (3)	21 (11)
平成28年		1 (1)												14 (5)	1 (1)	16 (7)
平成27年		40 (28)			1	4 (2)		1					1 (1)	9 (4)	4 (4)	60 (39)
平成26年		7 (4)						5 (3)						3		15 (7)
平成25年		3 (1)							1					21 (5)	1 (1)	26 (7)
平成24年														15 (3)		15 (3)
平成23年		9 (4)				2 (1)								7 (2)	2 (1)	20 (8)

③ 年齢別件数

区分	～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
令和6年	3	2	1	3 (2)	5 (1)		2 (1)	1 (1)	2 (1)	1		20 (6)
令和5年	1	2 (1)	1	1	4 (1)	2 (1)	4 (3)	2			2	19 (6)
令和4年	5	1	2	1	1	2 (1)				2 (2)		14 (3)
令和3年	1		1 (1)		1 (1)			1 (1)	1 (1)	3 (2)	2	10 (6)
令和2年	7	2	2	2	1 (1)	4 (4)	3 (1)	3 (3)			2	26 (9)
令和元年	9 (2)	2			4 (3)	2		1 (1)	3 (1)	3		24 (7)
平成30年	2	2			10 (1)	3 (1)	1	2	1		1	22 (2)
平成29年	3 (1)	1	2 (1)	2 (1)		2 (2)	2 (2)	4 (3)	4 (1)		1	21 (11)
平成28年	4	4 (3)		1	2 (1)	3 (2)	1 (1)				1	16 (7)
平成27年	22 (13)	18 (12)	2 (1)	2 (2)	4 (4)	6 (3)	1 (1)	3 (2)			2 (1)	60 (39)
平成26年	6 (1)	3 (1)				2 (2)	2 (2)	1		1 (1)		15 (7)
平成25年	6	2	3 (1)	1	3 (1)	1	2 (1)	1 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	26 (7)
平成24年	3	3 (1)	3	1	2	2 (2)			1			15 (3)
平成23年	4 (1)	5			3 (1)	3 (2)		1 (1)	2 (2)	1	1 (1)	20 (8)

④ 地区別件数

区分	東部地区	中部地区	西部地区	計
令和6年	2	(1)	6	12 (5)
令和5年	3	(1)	7	10 (4)
令和4年	5	(1)	6	11 (2)
令和3年	4	(2)	3	7 (2)
令和2年	3		15	18 (5)
令和元年	6	(2)	14	20 (3)
平成30年	7		5	12 (2)
平成29年	1		8	9 (4)
平成28年	2	(1)	12	14 (5)
平成27年	4	(4)	45	53 (31)
平成26年	1		8	9 (4)
平成25年	4	(1)	9	13 (3)
平成24年	7	(2)	1	8 (1)
平成23年			2	2 (1)

鳥取県病原微生物検出情報（令和6年11月検出分；検体採取 令和6年10,11月）

令和6年12月13日
鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体4件（検体採取11月上旬・中旬）について検査を実施したところ、4件ともA(H1)pdm09が検出された。

表1 2024/2025シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別					備考
年	月日			A(H1N1)pdm09型	A H3型	B victoria	B 山形	B 系統不明	
2024	9月3日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月6日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月14日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月15日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月19日	西部	1	1	0	0	0	0	
病原体定点PCR検査合計 (2024/9/2～現在)			5	5	0	0	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月6日作成）によると、2024/25シーズンはA(H1)pdm09型が最も多く検出されており、次いでA(H3)型が検出されている。

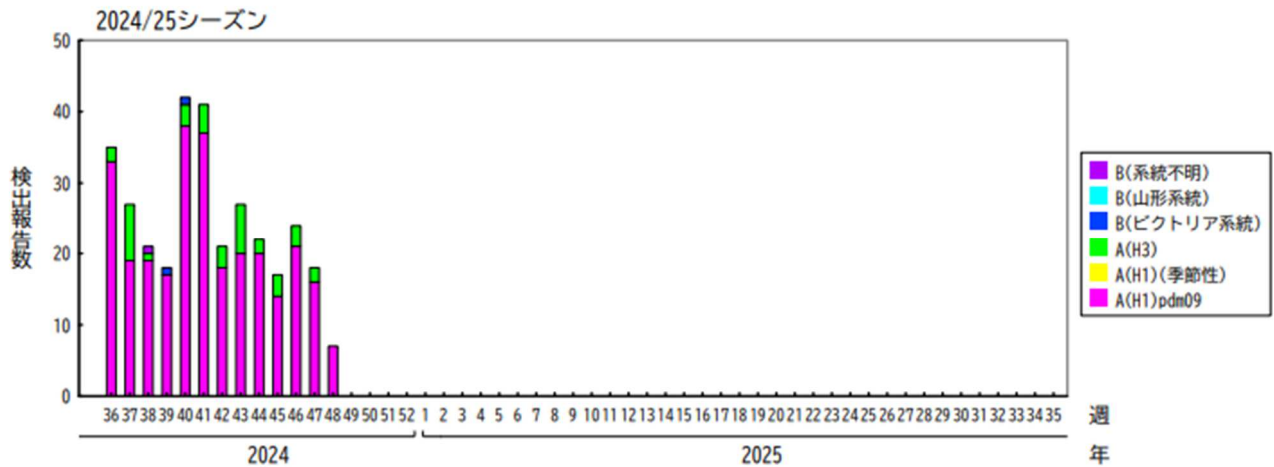


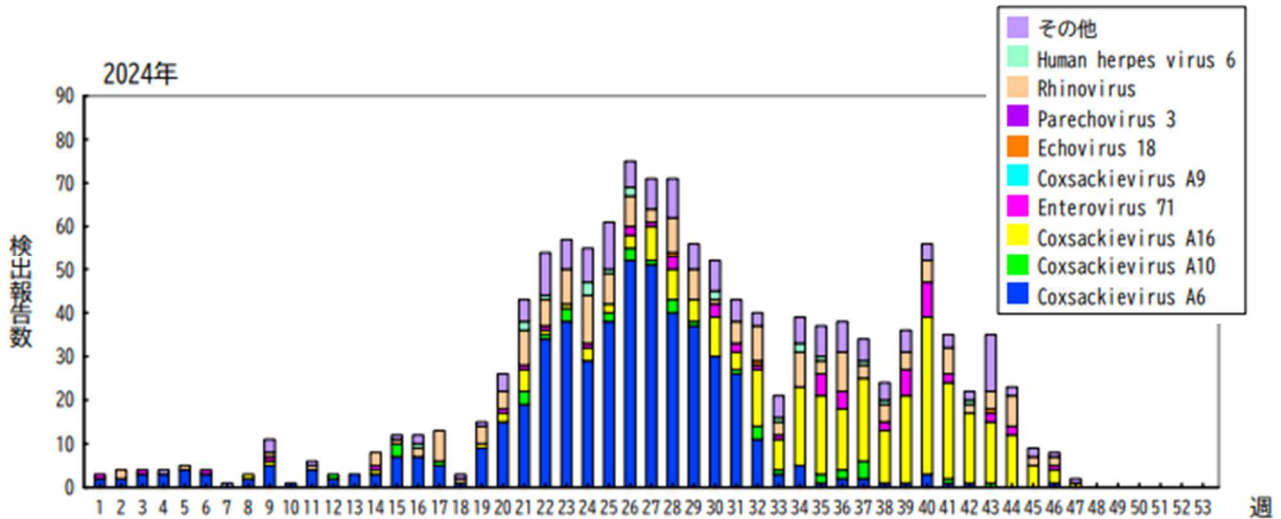
図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（2024/25シーズン）
出典：国立感染症研究所病原微生物検出情報（2024年12月6日作成）

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体3件について検査を行ったところ、1検体からサポウイルス（型不明）が検出された。他の2検体はノロウイルス、サポウイルス、A群ロタウイルス、C群ロタウイルス、アデノウイルス（40/41型）、アストロウイルスのいずれも検出されなかった。

3 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 3 件について検査を行ったところ、2 件からコクサッキーA16 型が検出された。コクサッキーA16 は、2023 年、2024 年いずれも手足口病から上位で検出されている代表的な型の 1 つである。1 件からはエンテロウイルス（型不明）が検出された。



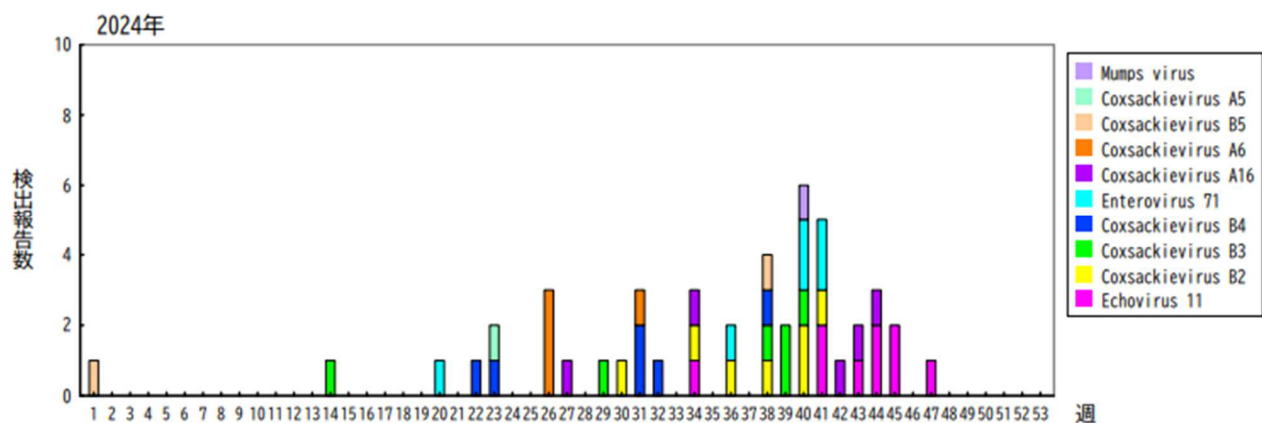
出典：国立感染症研究所 IASR 速報グラフ（2024 年 12 月 10 日作成）より抜粋

4 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 1 件について検査を行ったところ、アデノウイルス（8 型）が検出された。

5 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体 1 件（新生児）について検査を行ったところ、便からエンテロウイルス（エコーウイルス 11 型）が検出された。ヨーロッパに続いて日本でも 2024 年夏以降新生児重症肝炎やそれに伴う死亡例の情報があり、12 月 3 日に厚生労働省から新生児におけるエコーウイルス 11 型（E-11）感染症について、注意喚起の事務連絡が発出されている。



出典：国立感染症研究所 IASR 速報グラフ 週別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス分離・検出報告数、2020～2024 年（2024 年 12 月 6 日作成）より抜粋

新型コロナウイルスゲノム解析結果

令和6年12月13日
鳥取県衛生環境研究所

- 検体搬入日：2024年11月20日（水）、12月4日（水）
- 解析件数：7件（搬入件数：21件、14件は解析継続中）
- 結果概要：XEC系統（KS.1.1とKP.3.3の組換系統）：4件（67%）（解析不能は計算から除外）
KP.3系統（JN.1亜系統）：1件（17%）

表1 鳥取県新型コロナウイルスゲノム解析結果（検体採取日：11月10日～12月1日）

系統	Lineage (pangolon)	件数	備考	前回の検出数
KP.3系統	KP.3	0	JN.1の亜系統 KP.3.1系統には子孫系統のMC系統を含む	1
	KP.3.1系統	1		13
	KP.3.3系統	0		19
KP系統（KP.3以外）	KP.1系統	0		1
組換系統	XEC	4	KS.1.1とKP.3.3の組換系統	4
	XEL	1	KS.1.1.2とJN.1の組換系統	0
	解析不能	1		4
	合計	7		42

※赤字の系統：現在流行中の注目すべき変異株（VOIs）（WHO指定）（2024.12.2更新）→JN.1系統

※青字の系統：現在流行中の監視下の変異株（VUMs）（WHO指定）（2024.12.9更新）→KP.2, KP.3, KP.3.1.1, JN.1.18, LB.1, XEC

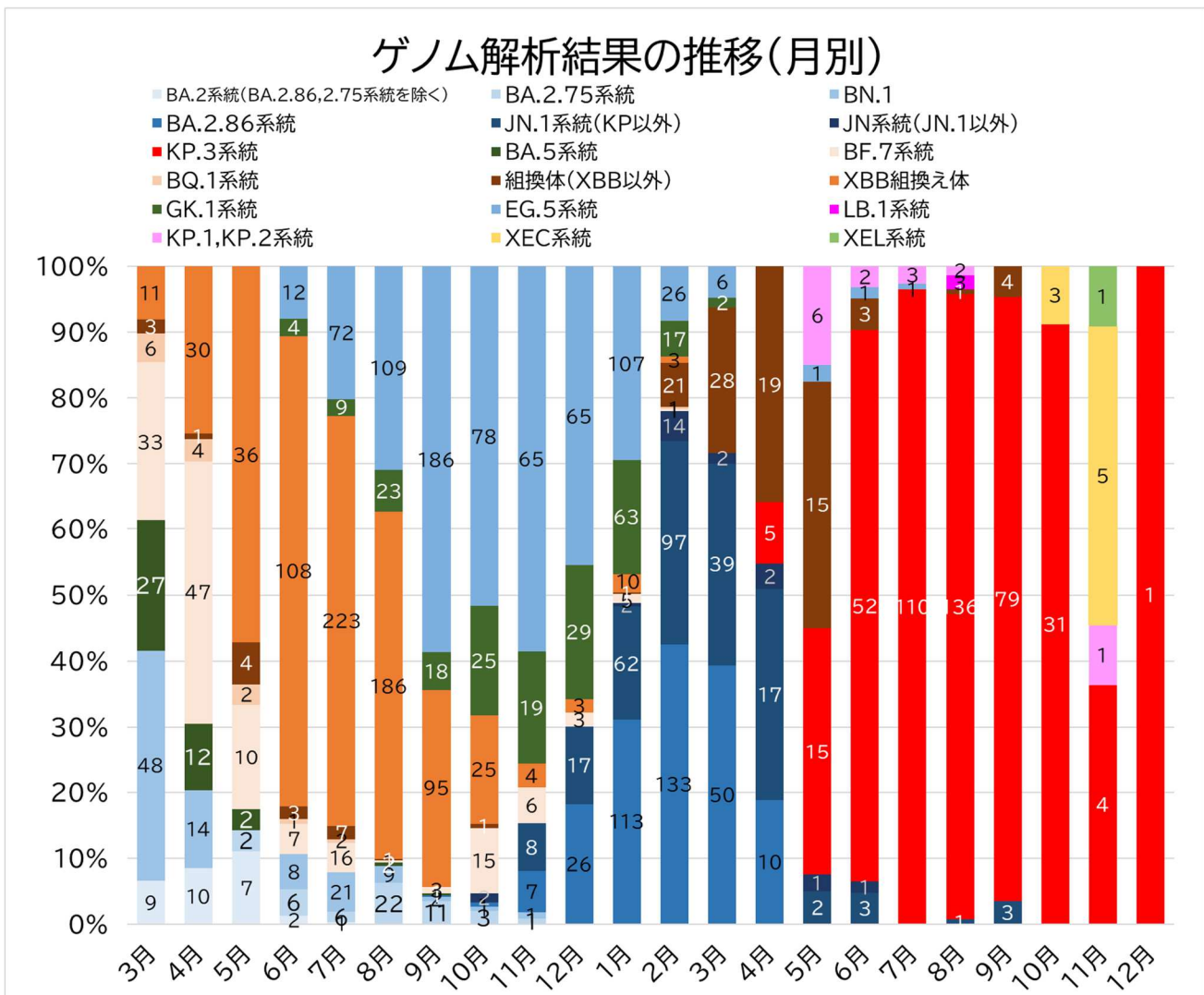


図1 月別新型コロナウイルスゲノム解析結果（2023/24シーズン）

